

きぶのたせ

NO.92 月刊

昭和四十一年二月一日 発行 (非売品)
岡山県瀬戸郡吉備町東町一五五番地(寄電四三七番)
吉備 観老 陽会

○ 浦野氏系譜 (板倉氏家臣) その二

童形 女五郎 安永三甲午年十二月晦日 備中笠岡の陣屋にて病死す、同所吉忠寺に葬る 法名 実幻童子

女子 安永九庚子年九月七日北 同所に葬る 法名 俊夢童女

陳連 治部右工門 思遊 榎奉行を勤む 行年七十三歳 庭瀬大塚山に葬る 嘉永四年三月十九日北 法名 瑞祥院彭山禪叟居士

室 備中河内郡津庄村小林考四郎の姉天保八丁酉年二月九日北 孝老院覚慧秀大姉 法名

陳期 澄右工門 小納戸役を勤む 嘉永六癸丑年四月廿一日北 行年四十六歳 望みにより大葬シ遺骨を大塚山に葬る、法名 龍幹院柱蔭昌居士

室 望景 備前岡山御野郡東古松大森治左工門の二子 行年五十一歳 慶應四年九月八日卒 望みにより大葬シ大塚山の墓所に葬る

嶋太郎四歳にて天保十四癸卯年七月六日卒 法名実幻記童子

陳連 惣治郎 嘉永二年二月廿六日生 明治四十四年六月廿四日卒 六十四歳 法名善淨院照 園光曜居士

室 遊龜 明治十年十月廿一日卒 二十七歳 法名桂巖院芳室妙輝大姉 備中庭瀬藩士 中出忠造の長女 大塚山に葬る

台室 房 尾島郡八次村柿小八郎の長女 二十八歳 病死 明治廿三年七月廿一日 法名貞心院清涼妙香大姉

環一 明治三年十一月廿五日生 同廿二年二月廿日北 英老院玄實居士 十八歳 大塚山に葬る

惠二 明治五年六月二日北 一歳 智珠童子 大塚山に葬る

小富 明治八年九月廿七日生 岡山東中島大橋町根岸久平の養女 後々復籍 北不詳

陳誠 明治廿年八月廿一日生 昭和廿年四月十四日北 五十九歳 法名華岳院清雲陳誠居士 室極(きわめ) 明治廿四年二月廿一日生 貞庭郡久世町久世村田谷造の長女 北不詳

孝俊 室は赤坂郡赤坂町下分岡藤政大の次男 岡山市奥田一ノ一に住す 賜子 大正四年二月廿日生 (孝俊の妻)

大塚山にある浦野家の墓標

一 賢達院源徳俊掃居士 居士姓 浦野氏 諱 思 稱 鉢 一兵衛 陸奥伊達郡 築川人 其先居信州三倉邑 邑永緑中有故陣於 甲州武田氏同家 城而為 戦後上杉氏慶長中 守築川城 寛文中有故 罷官 在任傳至居士 居 安永中官遊 備中仕庭 賴藩 侯 取在 知縣 勅力 公 事 二十六年有感 而不 猛有 仁 而不 偏 享 和 幸 亥 六月 乞 暇 暫 赴 築川 履 祭 先 隴 今 見 親 眷 以 慰 久 別 之 懷 經 年 乃 歸 文化二年 又 致 仕 改名 如 滴 素 性 尚 好 給 事 庶 需 若 干 取 筆 丙 寅 秋 罹 病 艱 起 居 丁 卯 八月 十三日 喚 彌 子 華 告 訣 作 絕 命 詞 正 念 而 終 距 生 享 保 十九年 甲 寅 得 年 七 十 四 矣 葬 于 西 花 尾 村 大 塚 山 彌 子 思 遊 乞 誌 其 墓 為 書 文化 六 己 巳 十月 前 井 龍 雲 史

一 老蒼院明壽大姉 文化六己巳年十月二十三日 備中笠岡住 清水角助妻女墓 一 本源院真巖自性大姉 宣和三年六月十三日 浦野思明妻 備中笠岡住清水氏女墓 一 瑞祥院彭山禪叟居士 嘉永四年三月二十九日卒 浦野治郎右工門陳連之墓 行年七十 一 孝老院心法慧秀大姉 天保八年丁酉四月九日 浦野治郎右工門陳連妻小林氏女

一 龍幹院桂蔭芳昌居士
清閑院節妙岩貞太婦

嘉永六癸丑四月廿一日卒 浦野澄石工門
陳期行年四十六才

一 慶應四加辰年九月八日卒同人妻倍稱里
善淨院照園光耀居士

○ 堀家氏系譜 (第七輯人物篇参照)
陳連(惣治郎)明治四十四年六月廿四日

桂巖院芳宣妙禪太婦
妻 遊喜 明治十年十月廿一日卒
貞心院清涼妙香太婦
妻 房 明治二十三年七月三十一日
浦野陳連夫婦之墓
以上

堀家氏はその系譜によればその祖先は吉備津彦命の臣で、この地方の豪族苗璽臣の後裔である。苗璽臣は吉備津宮の正殿、鼓神社、乾御崎神社の祭神である。堀家という姓は吉備津宮略記によれば吉備津彦命が温羅(第四輯戦争篇参照)を平定されて吉備の中山の茅葺の宮に帰陣の時、下道郡の長田の民が鹿を献納し奉った。この血が流れるなまぐさかつたので深く土中に埋められたが、二三日も臭気がして堪えられなかつたので、命は苗璽臣をして他の所へ棄てるよう命ぜられた。苗璽臣は詔によつて堀り出してみると鹿は蘇生して向山へ逃げ去つた。よつて命はいたく喜ばれて苗璽臣に堀生臣(ほりいけのおみ)の姓を賜うたという。後ち堀生、堀毛の臣が姓氏の始祖で、いまは堀家と呼ぶとある。そして堀家氏は連綿として吉備津宮に奉仕した神官である。一族は繁行して数家にわかれ、後ち各先祖の名によつて家号とした。即ち清政家、末政家、老政家、盛政家、正重家、経政家、経近家、利経家、家政家である。その一つの老政家が川入六十五畝地に住する堀家氏の系統である。

吉備津彦命の御弟 御支別 正守陰地に住す 仲彦 上道臣香屋の祖 美根 國造 庚申 國造
吉備武彦命 國崎神社祭神 加夜 國造

連手 國造 赤石 高室 葦森(正守)より 東山(吉備)に移る吉備津宮神主 廣庭 神主 諸手 美瀬 小濱 從五位下
諸魚 小足 小玉女 從五位下 高屋 貞楸 高尚 豊中 良成 宗政 貞政 貞家 備前權

長養三 甲寅年六月廿七日卒 備前權介弟神主 備前少掾 貞吉 嘉永二 丙申年六月十日卒 藤政 介兼神主 壽三十九才 文治三 丙申年七月七日卒 貞吉の三男

自是後為家系、十八世の祖高室以後 仁治二 辛丑年十月八日卒 壽七十九才 宗政 寛元二 甲辰年五月 俗稱大禊部、一族住東山新殿之上 公良 延慶三 丙申年十月七日卒 壽三十四 良麻呂 文永三 丙寅年 貞藤 母は藤井重考の女 母は大藤大夫高遠の女 九月廿七日 壽五十二 永仁 甲午年七月十七日卒 室は堀家清久の女 宮野

公政 幼名政丸、七才にして失父、家衰、母方に十一才にして養食はれ叔父の清長のおとを継ぐ 堀家姓を冒す堀家福太郎公政と稱す、この時東山の邸を棄て堀家の熊野小路 ① の家に移る、慶安七 甲午年六月十七日卒 壽七十一 満政 母は堀家清長の女(衆人呼んで老政君という、光と満の訓通和なり)家連盛心となる。堀家 中興の祖、老政家(字号) 應永二 乙亥年七月十五日卒 壽六十八、幼名太郎 女大藤大夫重考の室

貞彦 相絶 良博 母は大河内友信の女、賀陽良信の養子 相絶 相絶 相絶 忠時 相絶 重光 藤井民部重末の養子

② 満貞 幼名千代丸、母は和氣清野の女 應永四 丁丑年三月五日卒 壽五十四 ③ 貞彦 満政の二男、幼名龜千代 壽六十六 應永十 甲申年七月十三日卒

女子代子 上成村(三島市)の中京鉄之助に嫁ぐ、夫放蕩にて離婚し備前酒折神社(岡山神社)の社司岡一馬に再嫁す。
②④ 切名作之丞、母は梶、妻は初め長田村守屋氏の女誰婚し後ち摂津國天満村和田正之助の女雪子と婚す。広政は号を橋脊、天保二年卯年十月四日卒、年六十八。
②⑤ 切名常次郎、實は中田五左エ門重遠の二男、母は邑久郎尾海村藤岡萬右エ門の女、津苗子。徳政は初め真喜之助、忠政と改む。号は鯉陵又水竹清居。松有藤井高尚に於て國學を學べ、漢籍は眉山、中洲(三島)天野道育などに修め又江戸に上りて加賀の人、太田錦城の門に遊ぶ。

②⑥ 輔政 切名作之丞、母は喜智子。室は山手村地頭片山村守安畏卿の女登典子号を宮内。明治維新の際名を栢太郎に改む。
高推 切名老次郎。後ち謙、藤井高豊の養子。室は高豊の娘松野、母は邑久郎車村河野伯淳の女美弥子。右室は池上氏の女外に二妾あり。
文久三年七月廿五日勤王の志をたて京都に上り寓舎にて暗殺さる。

忠之丞 二才死
高総 切名建磨 後ち紀一郎。吉備津宮權祿宣。明治九年五月七日世一方の時備前國沼名前神社に轉じ同十四、五年の頃失踪行方不明。室は喜吉は紀一郎失踪後四子を残し離別し他家に嫁ぐ。
第五郎 卓、岡山の東ち松大森専門治の養子大正十二年二月十八日六十九才死。傷夫
備前藩士三宅敏太郎の養子、昭和四年六月十五日六十九才死。備前藩地に住す
甲造 備前藩士三宅敏太郎の養子、昭和四年六月十五日六十九才死。備前藩地に住す
正太郎(三男) 井上氏を經ぐ、從三位勲二等司法次官 東京麻布区に住す

春雄 終生妻を娶らざ大正元年九月六日三十四才死断絶。
(妹三女あり)
②⑦ 作政 帆通母は守安畏卿の女登子、弘化四年未年四月五日生。明治四十年川入本村に移り八幡神社外敷社の社司を勤む、昭和四年十月廿二日八十三才死。室は豊子の姪嘉津子。
好謙 碌平、嘉永四年四月十八日生。賀陽盛芳の養子。大坂市安土町に住す。
室は筒井氏にして名は直子。
後ち梅、英子と改む。和泉國(大阪府)堺區平井是龍医師に嫁ぐ。
大枝 好栄
菊枝

②⑧ 領政 賀陽太 母は守安嘉津子、明治十七年六月一日生、同四十四年三月廿二日二十八才卒。
急野 足守藩士千景規矩太郎に嫁ぐ、慶應元年八月八日生。
龍野 明治元年八月十九日生。
藤野 明治四年九月廿一日生。鬼島郡琴浦町(鬼島町)河本貞海の室。
小園 明治八年六月廿二日生。備前岡山藩士石黒定太郎の室、明治八年二月十六日卒。
早苗 明治十年六月十五日生。
忠政 切名愛兄、後ち善孝、明治廿七年六月四日生、領政の嗣となる。昭和十五年二月廿二日四十七才卒。室は連島町(倉敷市)安本謙吉の娘老子。(老子の母は薄田淳介「証董」の姉綾子)。
老太郎 親族緒方決庵の家を継ぐ
得次、孝四郎の二子あり。

②⑨ 嶽 大正十年二月二日生
晴子 大正十二年三月十五日生、伯母の婿家石里家を嗣ぐ
深 大正十四年五月十八日生 吉備町川入六十五畝地に住す

堀家別家畧系

藤井貞政 藤井高範の三男 社家頭
後々堀家を襲ふ 明和四年十二月五日卒

堂政 切名美徳三、阜太子は帰堂。実は宮
内村中田五左工門室遠の三男、安政
三年十一月廿日六十六才卒。

簡原 卒江戸
女 綾子
愛衆 無子絶家

隆正 玄蕃 社家頭 實は備前一
宮社務王藤内左工門大守
隆寛の二男
寛政六年十月廿六日卒

歌子 隆正の室

原平 初め才藏、堀家永政の
末子 江戸に出て松平右見守
費強に仕う。文化九年
九月十四日六十一才
江戸麻布の湖雲寺に葬る

政富 社司 社家頭 縫殿介從五位
下佐渡守 天保九年正月十五日四十六才卒

政平 社司 社家頭 輝之助
明治三年十一月五日五十七才卒 左馬之進 定

政徳 明治廿年十月廿日四十六才死

一箭 姓を堀毛氏に改む、實は堀家茂政の
三男、昭和九年三月廿四日八十一才死 陸軍少将 住東京

中田氏畧系

中田清右工門室朝
宮内大庄屋
室 津南、藤子
高範の女
享保元年十月廿七日七十九才死
貞松院清孝敬信女

女紋 會敷村林 佐兵衛の室
女千重 赤坂郡(赤岩郡)河津村森文左工門の室
女忠
女小志ほ
重遠 室は巨父即尾海村藤岡萬右工門の女津留子。
女周 四十瀬新田(倉敷市)内藤利源太の室
女萬津 和氣郡足所村(和氣町)大森文助の室

孝芳 徳太郎、清右工門
元治元年九月晦日八十三才卒

重明 六男、恒五郎、後々重直
明治十二年二月十七日卒 重美 嘉一郎 六十一才死
大正七年二月廿七日

常次郎 堀家公政の養子
後々徳政と改む。
美徳三 堀家重右工門隆正の養子。
後々堂政と改む。移江戸。

博之助 当主大政府生野區に住す

藤井氏畧系

社傳に正六位上備中六目付、斎衛三年六月吉備津宮の鈴鏡一夜に三度
之中臣藤井高雄鳴る、ここに三品を奉る時に饗司を奉仕す

高長 文時 大藤大夫 久任 神官 (第四輯城世尊實陽日町社參照) 在代不詳 高延 高之 高家 多門

左忠治 勳解由 一膳横枝 元禄十二年十一月十九日死 高友 長門 高範 社家頭
高房 高寛 忠兵衛 八十三才 元文五年十一月九日死

天明元年十月十七日八十一才死 津南 大庄屋中田清右工門 室朝の室

高久 社家頭從五位下但馬守、号は静斎又は細谷亭 文化四年
四月六日八十三才卒、室は小春、岡山酒折神社社務、岡
根前守為直の女、享和二年八月四日七十三才卒。
女梶 堀家右兵衛善政の室
高寛 左忠治 明和五年十二月廿八日卒
貞政 左馬之進 堀家真人末政の養子
五兵衛 切名崇蔵、山城国宇治村若林氏に養子、号は春泥
(おわり)此項未完

ナシヨナル連盟店

深井電気商店

吉備局電 264

吉備町平野 観音堂

吉備町平野・国道筋

トモエ葬儀社

吉備局電 四四番